

泌尿紀要
Acta Urol. Jpn.

Vol. 33, No. 7 ACTA UROLOGICA JAPONICA July 1987

泌尿器科紀要

第33巻 第7号 1987年7月

小児異所性褐色細胞腫を含む家族性褐色細胞腫の1家系	中川 修一・ほか	985
腎癌の肺転移巣の手術療法例の検討	福田 百邦・ほか	993
腎細胞癌の早期発見におけるCTおよびUSの意義について	堀井 康弘・ほか	998
尿管閉塞による急性腎不全61例の検討	比嘉 功・今川 章夫	1005
膀胱癌全摘除術施行例の治療成績	中野 勝・ほか	1011
経尿道的手術患者における留置カテーテルによる尿路感染症(英文)	山本 雅憲・ほか	1017
直視下内尿道切開術80例の臨床的考察—特に再発に関する考察—	山口 康宏・ほか	1021
硬性尿管鏡による経尿道的尿管結石破碎術の経験	柏原 昇・ほか	1030
少量女性ホルモン(ジエチルスチルベストロール・2 燐酸)による前立腺癌治療時の内分泌環境—単独およびアンチアンドロゲン(酢酸クロルマジン)との併用において—	林 正・ほか	1035
慢性前立腺炎患者からの <i>Ureaplasma urealyticum</i> の分離成績について	菅田 敏明・ほか	1043
前立腺癌患者血清中の前立腺特異抗原の検討	布施 秀樹・ほか	1049
ヒト精液中のNAG活性についての研究—精漿中ならびに精路組織における γ -GTP活性との関係および精漿中ムコ蛋白濃度との関係について—	吉田謙一郎・ほか	1054
男子避妊法の現状—精管切断術時における調査—	川村 健二・ほか	1060
脊髄損傷患者のインポテンスに対する塩酸パバベリン陰莖海綿体内注射の経験	百瀬 均・ほか	1065
慢性期脊髄損傷患者に対する泌尿器科的治療と排尿の自立について—第1報—	末盛 毅・ほか	1070
イヌ陰茎の血管鋳型からみた勃起のメカニズムについて	狩野 健一・ほか	1075
東海大学病院泌尿器科における尿中分離細菌について		
第4報: 1983~1984年の分離細菌とディスク感受性	岡田 敬司・ほか	1080
副腎 Myelolipoma の1例	坂本 善郎・ほか	1092
偶然発見された微小腎細胞癌の2例	寺井 章人・ほか	1096
結腸癌の後腹膜リンパ節転移による尿管狭窄を原因とする自然腎盂外溢流の1例	坂口 洋・ほか	1100
尿管管性アシドーシスを伴うシェーグレン症候群における腎石灰化症の1例	坂本 亘・ほか	1105
肝硬変・糖尿病に合併した気腫性腎盂腎炎の1例	伊藤 浩一・ほか	1110
原発性腎盂上皮内癌の1例	菊地 悦啓・ほか	1117
下腹部、外陰部にみられた von Recklinghausen 氏病の1例	喜多 芳彦・ほか	1121
大きな前部尿道憩室結石の1例	原 眞・ほか	1125
Estracyt® が奏効した巨大前立腺癌の1例	川嶋 秀紀・ほか	1128
前立腺部尿道に発生した乳頭状腺腫(adenomatous polyps with prostatic type epithelium)の2例	小村 隆洋・ほか	1132
精巣上体原発癌の1例(英文)	山本 雅憲・ほか	1139

Editor: Prof. Osamu YOSHIDA, M. D.

Department of Urology, Faculty of Medicine,
Kyoto University, Kyoto Japan 606
京都大学医学部泌尿器科学教室

購読要項 (1986年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 会員は年間予約購読料8,000円(送料とも)を前納する。払込みは振替に限る。口座番号 京都5-4772番 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ編集部宛、はがきにて申し込めば所定の用紙を送付します。

投稿規定 (1986年1月改訂)

1. 投稿：連名者を含めて会員(年間購読者)に限る。
 2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、そのほかで和文または英文とする。
 - (1) 普通論文の長さは、原則として、刷上り本文5頁(400×20枚程度)、図(Fig.)10枚、表(Table)10枚までとする。
 - (2) 和文原稿はB5版400字詰原稿用紙横書き、楷書(ワープロ可)、当用漢字、現代かなづかい、平がなし、清書する。年号は西暦とする。文中欧語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め、タイプ(手書き不可)する。
 - (イ) 原稿の表紙に標題、所属機関名、主任名、著者名の順に和文で併記する。下段に筆頭著者名と、2語からなる running title を付す
例；山田・ほか：前立腺がん・PSAP
 - (ロ) 英文抄録：和文の表紙、本文とは別に標題、著者名、所属機関名、主任名、5語(英文)以内の Key words、抄録本文の順にB5版ダブルスペースでタイプし、別にその和訳をつける。
 - (3) 英文原稿はダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、主任名、Key words (和文に準ず)、running title (和文に準ず)の順にタイプし、別に標題、著者名、所属機関名、主任名、抄録の順に記した和文抄録を付す。
 - (4) 数字はすべて算用数字を使用し、単位 m, cm, mm, l, ml, kg, g, mg, μ g, %, °C などとする。
 - (5) 和文、英文原稿を問わず図、表、写真などは各々台紙に添付し、それらに対する説明文は別紙に一括して Fig. 1 ..., Fig. 2 ..., Table 3 ... などと記載する。説明文は英文が望ましい。原稿右欄外に挿入さるべき位置を明示する。写真はトリ
- 編集委員： 石神 襄次 前川 正信
 園田 孝夫 友吉 唯夫
- ミシングし、図・表は誤りのないことを確認のうえ、トレースして紙焼したものが望ましい(コピー不可)。様式については本誌の図・表を参照する。
- (6) 引用文献は必要最少限にとどめ、引用箇所を本文中に入れる。その数は30までが望ましい。和文は楷書で、欧文はタイプする。
(例；山田^{1,3,7}、田中ら^{1,3-10}によると)
雑誌の場合—著者名(全員)：題名、雑誌名
巻：最初頁～最終頁、発行年
単行本の場合—著者名(全員)：題名、書名、編集者名、版数、巻数、引用頁、発行所、出版地、発行年
 - (7) 原稿を返却しないのでコピーを手元に残しオリジナルを書留で〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京大病院泌尿器科紀要編集部宛送付する。
 - (8) 投稿原稿は編集委員会においてその採否を決定し、それに従って編集部は原稿の訂正、書き直しまたは返却を指定する権限を保持する。
 - (9) 校正は初校を著者による責任校正とし、再校以降は編集部が行なう。著者複数の場合校正責任者を投稿時指定する。
3. 掲載
 - (1) 論文の掲載は採用順とする。迅速掲載には迅速掲載料を要する。
 - (2) 紙代、印刷費、製本代は編集部で負担する。残額を実費負担とし、請求は論文掲載誌発行後に行なう。論文の長さが超過した場合、超過料を別途に申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機具の使用などに関する研究論文については、掲載料を別途に申し受ける。
 4. 別刷：実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。
宮崎 重 新谷 浩
吉田 修(主幹)